城西大学女子短大生の意識構造に関する因子論的研究

――特に，講義や教員に対する意識を中心に――

和田　美知子
藤田　主一
堀江　　光

Ⅰ．研究の目的

大学生活の大きな目的は，大学教育を通して専門的な知識を獲得し，教養を身につけていくことである。難関といわれる受験競争を勝ち抜いた学生たちは，それまでに受けてきた高等学校教育の科目とは異なる幾多の新鮮な学問に触れて，こころ躍る体験をしているに相違ない。大学への入学を意図して以来，学生たちの関心は入学後に受ける教育カリキュラムや教育設備，既成のクラブやサークルの種類など，いわゆる教育環境に集中する。これらの教育環境は，大学教員と学生との人間関係を基軸に展開されるものである。

このような問題に対して科学的に接近することは，大学教育に携わる教員にとって極めて意義深いことである。すでに多くの国公私立の大学や短期大学では，特に教員が中心になって当該大学における学生の意識調査を実施したり，教育向上のための種々の研究に着手し，その結果が有益な研究報告の形をとって数多く公刊されている。我々の研究グループも，昭和59年度から毎年度にわたり，所属する城西大学女子短期大学部（以下，本学）の学生を対象に，彼女たちが日頃の学生生活をどのような態度で送っているか，またどのように感じているかを調査し，その実態と意識を分析し報告してきた[1)~8)]。

本研究は，上記調査から過去３回分（昭和62年度，平成元年度，平成３年度）の資料を選択し，設問の中から特に「本学における講義や教員に対する意識」の項目を取り上げて検討しようとするものである。具体的には，３年度分のデータを二次的に集計し，それらを基に統計量の①専攻間比較，②年度間比較，③因子分析による意識構造の把握について，新たな知見を提出しようと試みる。

II．研究の方法

1．調査対象者

本研究に参加した調査対象者は，本学の経営実務専攻（略号：J），秘書専攻（略号：H），日本文学専攻（略号：N），英米文学専攻（略号：A）の2年生1898名で，調査は各年度の5月から6月にかけて行われた。なお，昭和62年度，平成元年度，平成3年度における年度別および専攻別の対象者数は以下の通りである。

(1) 昭和62（1987）年度

経営実務専攻144名，秘書専攻144名，日本文学専攻141名，英米文学専攻138名，計567名。

(2) 平成元（1989）年度

経営実務専攻189名，秘書専攻194名，日本文学専攻158名，英米文学専攻143名，計684名。

(3) 平成3（1991）年度

経営実務専攻168名，秘書専攻170名，日本文学専攻140名，英米文学専攻169名，計647名。

2．調 査 材 料

ここで用いた調査材料は，上記の「本学における講義や教員に対する意識」に関する内容を構成する合計15項目から成る質問紙である。その項目は，以下の通りであるが，実施年度によって表現上，多少の変更が加えられている。

Q 1　他の短大にはない独特の講義があるのでよい。

Q 2　本学の講義は詰め込みすぎだ。

Q 3　本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい。

Q 4　本学の講義は社会に出てから役立つものが多い。

Q 5　本学の定期試験は難しい。

Q 6　講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ。

Q 7　単位を与えるときには出席点を考慮してほしい。

Q 8　レポートの提出より試験の方がよい。

Q 9　本学には好感を持てる先生が多い。

Q10　講義時間中におしゃべりをする人が多い。

Q11　友達に代返などを頼む人が多い。

Q12　もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい。

Q13　勉強に追われ自分のやりたいことができない。

Q14　教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい。

Q15　経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい。

これらの設問に対する評価法は，以下の5件法である。

1．非常にそう思う　　2．ややそう思う　　3．どちらともいえない

4．あまりそう思わない　　5．全然そう思わない

3．手　続　き

対象者に対する調査の手続きは，調査用紙の冒頭に組み込まれている教示を読み上げる方法によった。すなわち，「この調査は，皆さんが日頃の学生生活をどのように感じ，どのような態度で送っているか，その実態と意識を分析して皆さんの学生生活の特徴を位置づけ，合わせて今後のより良い環境作りの参考に供する目的で実施するものです。調査内容は，上記の目的以外に利用することはありませんので，ありのまま答えてください」という趣旨のものである。

なお，Q1～Q15の回答については，与えられた5件法評価のうちの一つを選択し，その結果をカードの所定の欄にマークするように求められた。

Ⅲ．基本統計量による専攻間，年度間の比較

表1～表15は，Q1～Q15に対して，J（経営実務専攻），H（秘書専攻），N（日本文学専攻），A（英米文学専攻）の学生が五つの評価，すなわち，「非常にそう思う」・「ややそう思う」・「どちらともいえない」・「あまりそう思わない」・「全然そう思わない」にどのような比率で回答したのかを，調査年度別にまとめた結果である。個々の比率について，一つ一つ取り上げて説明することはしない。ここでは，①各専攻間の比率に統計上の意味があるのかをカイ二乗検定によって確認する。②「非常にそう思う」に1点，「ややそう思う」に2点，「どちらともいえない」に3点，「あまりそう思わない」に4点，「全然そう思わない」に5点を与えて点数化し，各専攻と各年度における合計得点ならびに平均点，標準偏差（SD）を算出して，各項目ごとの専攻間と年度間の分散分析を試みることにする。

1．専攻間のカイ二乗検定による有意性の結果

(1)　Q1「他の短大にはない独特の講義があるのでよい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=48.69$，$df=12$，$p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=95.81$，$df=12$，$p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=62.95$，$df=12$，$p<0.01$）。

表1　Q1「他の短大にはない独特の講義があるのでよい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	3.5	18.1	12.1	8.0	3.2	14.4	3.2	4.2	6.0	14.7	4.3	4.1
ややそう思う	17.3	36.1	26.2	21.7	14.3	29.9	29.1	5.6	25.6	40.0	25.0	15.4
どちらともいえない	25.7	18.8	28.3	30.4	31.2	25.3	31.0	25.9	29.2	18.2	22.2	27.2
あまりそう思わない	40.3	19.4	27.7	26.8	38.6	23.7	21.5	39.1	33.9	23.0	37.1	39.1
全然そう思わない	13.2	7.6	5.7	13.1	12.7	6.7	15.2	25.2	5.3	4.1	11.4	14.2
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表2　Q2「本学の講義は詰め込みすぎだ」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	4.9	4.2	2.8	10.9	1.6	1.5	1.3	9.1	2.4	1.8	2.9	8.3
ややそう思う	14.6	16.0	7.1	18.1	14.8	12.9	7.6	16.1	7.1	13.5	16.4	18.3
どちらともいえない	24.3	18.0	20.6	24.6	19.1	23.2	22.2	23.8	33.9	25.9	25.7	24.3
あまりそう思わない	45.8	50.7	50.4	40.6	51.3	45.9	52.5	37.0	51.2	50.6	44.3	42.0
全然そう思わない	10.4	11.1	19.1	5.8	13.2	16.5	16.4	14.0	5.4	8.2	10.7	7.1
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表3　Q3「本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	2.1	2.1	7.8	8.7	2.1	2.6	1.9	3.5	1.8	1.2	2.9	2.4
ややそう思う	10.4	15.3	31.2	28.3	23.8	22.1	17.1	21.0	17.8	20.0	20.7	32.5
どちらともいえない	36.1	38.9	46.8	40.6	42.3	37.6	44.3	46.8	53.0	46.4	49.2	42.0
あまりそう思わない	43.8	36.1	11.4	18.1	27.5	28.9	27.2	19.6	25.0	26.5	24.3	21.3
全然そう思わない	7.6	7.6	2.8	4.3	4.3	8.8	9.5	9.1	2.4	5.9	2.9	1.8
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表4　Q4「本学の講義は社会に出てから役立つものが多い」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	4.2	11.8	1.4	2.2	9.0	11.4	0	0.7	7.7	14.1	0.7	0.6
ややそう思う	37.5	51.4	12.1	12.3	37.0	44.3	4.4	4.9	42.9	48.2	9.3	9.5
どちらともいえない	29.8	22.2	36.2	36.2	29.1	33.0	27.2	34.3	32.7	21.8	35.0	37.9
あまりそう思わない	25.0	13.2	39.0	39.9	22.8	10.8	48.1	37.7	16.1	15.3	44.3	39.0
全然そう思わない	3.5	1.4	11.3	9.4	2.1	0.5	20.3	22.4	0.6	0.6	10.7	13.0
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表5　Q5「本学の定期試験は難しい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	8.3	5.6	3.5	5.8	6.9	4.1	3.8	2.8	3.6	2.9	3.6	6.5
ややそう思う	29.1	17.3	13.5	23.9	31.8	17.5	19.0	13.3	21.4	15.3	17.1	17.8
どちらともいえない	43.1	45.8	36.9	43.5	40.7	42.3	44.9	42.6	53.0	51.8	50.7	47.3
あまりそう思わない	18.1	25.7	39.0	26.1	18.0	32.0	26.6	31.5	20.2	24.1	27.2	23.1
全然そう思わない	1.4	5.6	7.1	0.7	2.6	4.1	5.7	9.8	1.8	5.9	1.4	5.3
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表6　Q6「講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	27.1	27.1	31.9	37.7	24.3	20.1	22.2	23.8	10.1	15.9	20.0	17.7
ややそう思う	29.1	25.0	39.0	31.2	38.6	37.1	33.5	30.0	28.6	38.8	43.5	49.1
どちらともいえない	25.7	27.1	16.3	17.4	24.9	25.8	29.7	27.3	44.0	31.2	23.6	24.3
あまりそう思わない	14.6	13.9	9.9	12.3	10.1	11.3	11.4	16.8	14.9	11.7	9.3	7.1
全然そう思わない	3.5	6.9	2.9	1.4	2.1	5.7	3.2	2.1	2.4	2.4	3.6	1.8
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表7　Q7「単位を与えるときには出席点を考慮してほしい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	46.5	40.3	38.3	50.0	45.0	28.4	40.5	37.7	38.1	34.7	49.3	37.3
ややそう思う	30.6	27.8	25.5	26.8	25.9	33.0	24.1	29.4	30.9	33.0	22.9	36.7
どちらともいえない	11.8	16.6	23.4	13.8	14.3	21.6	25.9	19.6	23.2	22.9	17.8	16.0
あまりそう思わない	7.6	10.4	8.5	6.5	10.0	13.9	3.8	9.1	5.4	8.2	6.4	6.5
全然そう思わない	3.5	4.9	4.3	2.9	4.8	3.1	5.7	4.2	2.4	1.2	3.6	3.5
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表8　Q8「レポートの提出より試験の方がよい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	4.2	3.5	4.2	2.2	3.2	6.7	3.2	6.3	10.1	7.7	4.3	4.2
ややそう思う	10.4	10.4	7.8	8.0	13.2	12.9	6.3	8.4	20.8	14.7	11.4	11.8
どちらともいえない	29.1	30.6	36.9	26.8	29.1	39.7	35.5	35.0	36.3	39.4	32.9	38.5
あまりそう思わない	29.9	29.8	29.8	26.8	36.0	27.8	29.1	29.3	23.2	28.8	30.0	26.0
全然そう思わない	26.4	25.7	21.3	36.2	18.5	12.9	25.9	21.0	9.6	9.4	21.4	19.5
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表9　Q9「本学には好感を持てる先生が多い」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	4.9	4.9	12.8	5.1	6.9	5.1	7.6	9.1	4.8	1.8	8.6	8.9
ややそう思う	30.6	27.1	35.4	36.2	37.0	37.1	31.0	30.7	22.6	30.6	33.5	35.5
どちらともいえない	41.7	43.7	28.4	34.1	37.0	39.7	34.8	42.0	47.6	46.4	36.4	39.6
あまりそう思わない	18.7	15.3	17.7	20.3	15.4	15.5	19.0	14.0	22.6	16.5	17.9	14.2
全然そう思わない	4.1	9.0	5.7	4.3	3.7	2.6	7.6	4.2	2.4	4.7	3.6	1.8
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表10　Q10「講義時間中におしゃべりをする人が多い」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	11.1	12.5	9.9	6.5	7.9	14.9	7.0	11.9	26.8	51.2	40.0	37.9
ややそう思う	38.9	36.8	29.1	29.0	29.7	41.2	31.6	22.4	51.2	41.2	46.4	40.2
どちらともいえない	25.0	29.1	29.8	29.0	31.2	22.7	31.6	32.1	16.6	4.7	10.0	19.5
あまりそう思わない	21.5	15.3	22.0	31.2	25.9	16.5	20.9	27.3	5.4	2.9	3.6	2.4
全然そう思わない	3.5	6.3	9.2	4.3	5.3	4.7	8.9	6.3	0	0	0	0
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表11　Q11「友達に代返などを頼む人が多い」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	11.8	21.5	24.8	42.7	15.9	12.9	19.6	25.2	9.5	8.8	6.4	9.5
ややそう思う	20.8	23.6	16.3	22.5	25.4	24.2	20.3	23.0	26.2	34.1	27.2	25.5
どちらともいえない	27.1	25.7	31.2	21.0	22.2	34.0	27.8	27.3	48.2	35.9	34.3	41.4
あまりそう思わない	28.5	21.5	19.2	10.9	26.4	24.2	24.1	19.6	14.9	20.0	26.4	18.9
全然そう思わない	11.8	7.7	8.5	2.9	10.1	4.7	8.2	4.9	1.2	1.2	5.7	4.7
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表12　Q12「もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	25.0	20.1	38.3	34.0	24.3	28.9	32.3	37.0	11.3	9.4	30.7	21.9
ややそう思う	41.0	30.6	35.5	37.0	34.4	42.8	36.1	34.3	35.7	41.2	35.7	41.4
どちらともいえない	16.0	28.5	17.7	21.0	21.7	16.5	19.6	18.2	31.6	32.4	25.0	23.1
あまりそう思わない	17.3	20.1	7.8	8.0	18.5	10.8	8.8	7.7	20.8	13.5	7.9	13.6
全然そう思わない	0.7	0.7	0.7	0	1.1	1.0	3.2	2.8	0.6	3.5	0.7	0
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表13　Q13「勉強に追われ自分のやりたいことができない」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	3.5	0	2.8	10.1	3.7	2.1	2.6	8.4	1.8	1.8	5.7	3.0
ややそう思う	11.1	5.6	11.4	22.5	11.1	7.2	4.4	15.4	8.9	9.4	12.9	9.4
どちらともいえない	19.4	22.2	26.2	29.7	24.3	22.7	25.3	30.7	42.2	30.6	32.9	37.3
あまりそう思わない	50.7	47.2	35.5	31.9	43.4	47.9	48.1	35.0	41.1	50.0	37.1	38.5
全然そう思わない	15.3	25.0	24.1	5.8	17.5	20.1	19.6	10.5	6.0	8.2	11.4	11.8
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表14　Q14「教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	36.1	32.6	47.5	34.8	27.5	33.0	37.4	30.0	28.0	18.2	36.4	38.4
ややそう思う	35.4	35.4	27.7	37.7	43.9	40.7	34.8	34.3	43.5	41.8	34.3	34.9
どちらともいえない	18.0	20.1	13.5	18.8	15.9	17.0	15.2	25.2	19.6	29.4	18.6	16.0
あまりそう思わない	6.3	8.4	7.8	6.5	9.5	7.7	8.2	6.3	8.9	10.6	10.0	9.5
全然そう思わない	4.2	3.5	3.5	2.2	3.2	1.6	4.4	4.2	0	0	0.7	1.2
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

表15　Q15「経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい」に対する比較

(%)

年度 / 専攻 / 評価	昭和62（1987）年度				平成元（1989）年度				平成3（1991）年度			
	J	H	N	A	J	H	N	A	J	H	N	A
非常にそう思う	13.2	14.6	14.2	12.3	8.4	13.4	12.6	16.1	8.9	10.0	12.1	15.4
ややそう思う	23.6	19.4	34.0	22.5	22.8	26.3	18.4	16.1	20.2	30.6	22.1	24.2
どちらともいえない	32.6	30.6	29.8	29.7	34.9	39.2	38.6	41.2	47.1	35.3	33.6	37.9
あまりそう思わない	20.2	23.6	12.8	20.3	23.8	14.9	22.2	17.5	20.2	20.6	22.9	18.9
全然そう思わない	10.4	11.8	9.2	15.2	10.1	6.2	8.2	9.1	3.6	3.5	9.3	3.6
合計（人数）	144	144	141	138	189	194	158	143	168	170	140	169

(2)　Q 2「本学の講義は詰め込みすぎだ」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=31.35$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=33.41$, $df=12$, $p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=29.14$, $df=12$, $p<0.01$）。

(3)　Q 3「本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=72.90$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=12.05$, $df=12$, $p>0.1$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=19.36$, $df=12$, $p>0.05$）。

(4)　Q 4「本学の講義は社会に出てから役立つものが多い」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=120.79$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=237.37$, $df=12$, $p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=191.91$, $df=12$, $p<0.01$）。

(5) Q 5「本学の定期試験は難しい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=37.10$，$df=12$，$p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=36.94$，$df=12$，$p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=14.12$，$df=12$，$p>0.1$）。

(6) Q 6「講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=21.97$，$df=12$，$p<0.05$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=11.81$，$df=12$，$p>0.1$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=35.30$，$df=12$，$p<0.01$）。

(7) Q 7「単位を与えるときには出席点を考慮してほしい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=12.41$，$df=12$，$p>0.1$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=27.44$，$df=12$，$p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=16.39$，$df=12$，$p>0.1$）。

(8) Q 8「レポートの提出より試験の方がよい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=11.02$，$df=12$，$p>0.1$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=23.27$，$df=12$，$p<0.05$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=28.24$，$df=12$，$p<0.01$）。

(9) Q 9「本学には好感を持てる先生が多い」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=22.48$，$df=12$，$p<0.05$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められなかった（$\chi^2=11.67$，$df=12$，$p>0.1$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=24.34$，$df=12$，$p<0.05$）。

(10) Q10「講義時間中におしゃべりをする人が多い」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=19.61$，$df=12$，$p>0.05$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻

によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=29.10$, $df=12$, $p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=35.74$, $df=12$, $p<0.01$）。

(11) Q11「友達に代返などを頼む人が多い」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=51.40$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められなかった（$\chi^2=20.47$, $df=12$, $p>0.05$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=22.49$, $df=12$, $p<0.05$）。

(12) Q12「もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=32.41$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=22.55$, $df=12$, $p<0.05$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=44.98$, $df=12$, $p<0.01$）。

(13) Q13「勉強に追われ自分のやりたいことができない」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=67.07$, $df=12$, $p<0.01$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=32.40$, $df=12$, $p<0.01$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=18.37$, $df=12$, $p>0.1$）。

(14) Q14「教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=10.87$, $df=12$, $p>0.1$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=14.98$, $df=12$, $p>0.1$）。平成3年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差が認められた（$\chi^2=28.95$, $df=12$, $p<0.01$）。

(15) Q15「経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい」

昭和62年度の5評価に対する分布状況は，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=14.53$, $df=12$, $p>0.1$）。平成元年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=16.48$, $df=12$, $p>0.1$）。平成3年度の5評価に対する分布状況も，4専攻によってその比率に有意な差は存在しなかった（$\chi^2=20.31$, $df=12$, $p>0.05$）。

表16　4専攻間におけるＱ１～Q15の各年度に対する有意差検定の結果

項目 / 年度	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	Ｑ５	Ｑ６	Ｑ７	Ｑ８	Ｑ９	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
昭和62（1987）年度	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊			＊		＊＊	＊＊	＊＊		
平成元（1989）年度	＊＊	＊＊		＊＊	＊＊		＊＊	＊		＊＊		＊	＊＊		
平成３（1991）年度	＊＊	＊＊		＊＊		＊＊		＊＊	＊	＊＊	＊	＊＊		＊＊	

＊ｐ＜0.05,　＊＊ｐ＜0.01

以上の結果は，表16のようにまとめることができるだろう。表中の＊印は５％の有意水準で，Ｊ・Ｈ・Ｎ・Ａの回答に違いのあることを示している。また，表中の＊＊印は１％の有意水準で，Ｊ・Ｈ・Ｎ・Ａの回答に違いのあることを表している。つまり，両者とも４専攻によってその回答にバラツキがあることを意味する。無印は４専攻の回答の仕方に差の無いことを示している。例えば，Ｑ１・Ｑ２・Ｑ４・Q12などは昭和62年度，平成元年度，平成３年度ともに４専攻の評価が異なるということである。また，Q15はこの３カ年度とも，その評価内容に違いが認められず，ほとんど同じ回答に終始したということである。さらに，Ｑ３とQ14は対照的な傾向を示していることが理解できる。

２．各専攻の平均値による年度間の有意差検定

次に，先に述べたように各専攻と全体の調査対象者ならびに各年度について，五つの評価項目に１～５点を与えて数値化し，標準偏差（ＳＤ）を求めた。表17は，各専攻の平均値（標準偏差）および年度間の有意差検定（分散分析：F_0値）の結果をまとめたものである。それぞれの平均値は１～５点の範囲に分布しているが，付与された点数が３点である「どちらともいえない」を中心に対称化されているので，平均値が１点に近づくほど「非常にそう思う」への偏向，そして５点に近づくほど「全然そう思わない」への偏向を示している。また，“全体”は各年度の対象者全員（昭和62年度：567名，平成元年度：684名，平成３年度：647名）を指している。

各専攻の各年度における平均値と標準偏差に基づいて，分散分析を実施した。表17の有意差を示すコラムにある＊印は，５％の有意水準で各専攻の年度間に差異のあることを表し，＊＊印は１％の有意水準で各専攻の年度間に差異のあることを表している。無印は年度間に差異が存在しないこと，すなわち対象者である学生の回答に年度を越えた一貫性があることを示している。いくつかの項目を拾って考察してみよう。

項目毎に，年度間に有意差のあった専攻を抜き出してみると，

Ｑ１「他の短大にはない独特の講義があるのでよい」…… Ｊ／　／Ｎ／Ａ

Q２「本学の講義は詰め込みすぎだ」……　／　／N／
Q３「本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい」……　J／　／N／A
Q４「本学の講義は社会に出てから役立つものが多い」……　J／　／N／A
Q５「本学の定期試験は難しい」……　／　／N／A
Q６「講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ」……　J／　／　／A
Q７「単位を与えるときには出席点を考慮してほしい」……　／　／　／
Q８「レポートの提出より試験の方がよい」……　J／H／　／A
Q９「本学には好感を持てる先生が多い」……　J／H／　／
Q10「講義時間中におしゃべりをする人が多い」……　J／H／N／A
Q11「友達に代返などを頼む人が多い」……　J／　／　／A
Q12「もっと専門的なことを一つを追求して勉強したい」……　J／H／　／A
Q13「勉強に追われ自分のやりたいことができない」……　／H／N／A
Q14「教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい」……　／H／　／
Q15「経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい」……　／　／　／A

となる。ここから理解できることは，たとえばQ１の場合，J（経営実務専攻），N（日本文学専攻），A（英米文学専攻）が年度の推移によって回答に変化が見られたのに対して，H（秘書専攻）は３カ年度とも2.6～2.8（“そう思う”の方へ偏向）の平均値の範囲で一貫した傾向を持っていることを示すのである。有意差が認められた項目については，同様に解釈できる。

ここで特徴的な項目は，Q７とQ10であろう。Q７はJ・H・N・Aという専攻を問わず，また年度を問わず一貫して類似の反応傾向（ここでは“そう思う”への偏向）を示している。講義時間中に出席を取るか取らないかは教員の裁量の範囲であるし，講義科目によっても異なるものである。一般的にいえば，少人数で行う科目の場合には出席は比較的取りやすいので，実際に実行している教員は多いと思われる。しかし，大きな教室で100人を越えるような講義の場合には出席を取ること自体が難しい。おそらく，Q７で“そう思う”の方向へ強く回答した学生は，前者を意識しているものと推測できる。学生の多くは，せっかく出席するために登校したのだからその努力を認めて単位認定のときに考慮してほしいと願うのである。これは，いつの時代も同じことなのだろう。

一方，Q10への回答傾向は４専攻すべてが年度の推移とともに変化している。昭和62年度の設問が，“いねむりやおしゃべり”となっていることを加味すれば，“講義時間中におしゃべりをする”という態度（自分と周囲を含めて）は，表17を見る限りにおいて，年々強まっており，“そう思う”への偏向が顕著である。

さて，最後に全体を通した場合，評価の３「どちらともいえない」への中心化傾向になることは否定できないが，それでも項目によってかなりのバラつきが認められる。たとえば，昭和62年度のQ２・Q８・Q13，平成元年度のQ２・Q８・Q13，平成３年度のQ２・Q13などは“そう思

表17　各専攻の平均値（標準偏差）および年度間の有意差検定の結果

項　　目	専　攻	昭和62年度 (1987)	平成元年度 (1989)	平成３年度 (1991)	有意差
Ｑ１	J	3.4 (1.03)	3.4 (0.99)	3.1 (1.02)	＊＊
	H	2.6 (1.21)	2.8 (1.16)	2.6 (1.12)	
	N	2.9 (1.12)	3.2 (1.11)	3.3 (1.09)	＊
	A	3.2 (1.15)	3.8 (1.03)	3.4 (1.05)	＊＊
	全　体	3.0 (1.16)	3.3 (1.13)	3.1 (1.11)	＊＊
Ｑ２	J	3.4 (1.02)	3.6 (0.95)	3.5 (0.80)	
	H	3.5 (1.02)	3.6 (0.96)	3.5 (0.89)	
	N	3.8 (0.94)	3.8 (0.86)	3.4 (0.98)	＊＊
	A	3.1 (1.12)	3.3 (1.17)	3.2 (1.09)	
	全　体	3.4 (1.05)	3.6 (0.99)	3.4 (0.95)	＊＊
Ｑ３	J	3.4 (0.86)	3.1 (0.87)	3.1 (0.77)	＊＊
	H	3.3 (0.90)	3.2 (0.97)	3.2 (0.85)	
	N	2.7 (0.88)	3.3 (0.92)	3.0 (0.83)	＊＊
	A	2.8 (0.98)	3.1 (0.95)	2.9 (0.83)	＊
	全　体	3.1 (0.96)	3.2 (0.93)	3.0 (0.83)	
Ｑ４	J	2.9 (0.96)	2.7 (0.98)	2.6 (0.87)	＊
	H	2.4 (0.91)	2.4 (0.85)	2.4 (0.93)	
	N	3.5 (0.90)	3.8 (0.79)	3.5 (0.83)	＊＊
	A	3.4 (0.90)	3.8 (0.88)	3.5 (0.86)	＊＊
	全　体	3.0 (1.01)	3.1 (1.08)	3.0 (1.02)	
Ｑ５	J	2.7 (0.90)	2.8 (0.91)	3.0 (0.80)	
	H	3.1 (0.93)	3.1 (0.90)	3.1 (0.85)	
	N	3.3 (0.92)	3.1 (0.91)	3.1 (0.80)	＊
	A	2.9 (0.87)	3.3 (0.92)	3.0 (0.94)	＊＊
	全　体	3.0 (0.93)	3.1 (0.93)	3.0 (0.85)	
Ｑ６	J	2.4 (1.13)	2.3 (1.01)	2.7 (0.92)	＊＊
	H	2.5 (1.22)	2.5 (1.11)	2.5 (0.97)	
	N	2.1 (1.06)	2.4 (1.05)	2.3 (1.01)	
	A	2.1 (1.08)	2.4 (1.09)	2.3 (0.89)	＊
	全　体	2.3 (1.14)	2.4 (1.06)	2.4 (0.96)	＊
Ｑ７	J	1.9 (1.10)	2.0 (1.20)	2.0 (1.02)	
	H	2.1 (1.19)	2.3 (1.12)	2.1 (1.01)	
	N	2.1 (1.15)	2.1 (1.15)	1.9 (1.12)	
	A	1.9 (1.07)	2.1 (1.14)	2.0 (1.06)	
	全　体	2.0 (1.13)	2.1 (1.16)	2.0 (1.05)	＊
Ｑ８	J	3.6 (1.11)	3.5 (1.04)	3.0 (1.11)	＊＊
	H	3.6 (1.08)	3.3 (1.06)	3.2 (1.05)	＊＊
	N	3.6 (1.04)	3.7 (1.03)	3.5 (1.08)	
	A	3.9 (1.07)	3.5 (1.11)	3.4 (1.06)	＊＊
	全　体	3.7 (1.08)	3.5 (1.07)	3.3 (1.09)	＊＊

項　目	専　攻	昭和62年度 (1987)	平成元年度 (1989)	平成3年度 (1991)	有意差
Q9	J	2.9 (0.92)	2.7 (0.93)	3.0 (0.86)	*
	H	3.0 (0.99)	2.7 (0.88)	2.9 (0.85)	*
	N	2.7 (1.08)	2.9 (1.05)	2.7 (0.97)	
	A	2.8 (0.96)	2.7 (0.96)	2.6 (0.90)	
	全　体	2.8 (0.99)	2.8 (0.95)	2.8 (0.90)	
Q10	J	2.7 (1.04)	2.9 (1.04)	2.0 (0.81)	**
	H	2.7 (1.08)	2.5 (1.08)	1.6 (0.72)	**
	N	2.9 (1.13)	2.9 (1.08)	1.8 (0.77)	**
	A	3.0 (1.02)	2.9 (1.11)	1.9 (0.81)	**
	全　体	2.8 (1.08)	2.8 (1.09)	1.8 (0.79)	**
Q11	J	3.1 (1.20)	2.9 (1.25)	2.7 (0.87)	*
	H	2.7 (1.24)	2.8 (1.08)	2.7 (0.93)	
	N	2.7 (1.27)	2.8 (1.24)	3.0 (1.01)	
	A	2.1 (1.16)	2.6 (1.20)	2.8 (1.00)	**
	全　体	2.6 (1.26)	2.8 (1.19)	2.8 (0.96)	*
Q12	J	2.3 (1.05)	2.4 (1.08)	2.6 (0.96)	**
	H	2.5 (1.05)	2.1 (0.98)	2.6 (0.96)	**
	N	2.0 (0.97)	2.1 (1.07)	2.1 (0.96)	
	A	2.0 (0.94)	2.0 (1.06)	2.3 (0.96)	*
	全　体	2.2 (1.02)	2.2 (1.05)	2.4 (0.98)	**
Q13	J	3.6 (0.99)	3.6 (1.02)	3.4 (0.81)	
	H	3.9 (0.83)	3.8 (0.92)	3.5 (0.84)	**
	N	3.7 (1.05)	3.8 (0.90)	3.4 (1.03)	**
	A	3.0 (1.09)	3.2 (1.10)	3.5 (0.93)	**
	全　体	3.6 (1.05)	3.6 (1.00)	3.4 (0.90)	**
Q14	J	2.1 (1.08)	2.2 (1.04)	2.1 (0.91)	
	H	2.1 (1.08)	2.0 (0.98)	2.3 (0.89)	*
	N	1.9 (1.12)	2.1 (1.12)	2.0 (1.01)	
	A	2.0 (1.00)	2.2 (1.07)	2.0 (1.02)	
	全　体	2.0 (1.07)	2.1 (1.05)	2.1 (0.96)	
Q15	J	2.9 (1.18)	3.0 (1.10)	2.9 (0.95)	
	H	3.0 (1.22)	2.7 (1.07)	2.8 (1.00)	
	N	2.7 (1.15)	2.9 (1.12)	2.9 (1.15)	
	A	3.0 (1.24)	2.9 (1.16)	2.7 (1.05)	*
	全　体	2.9 (1.20)	2.9 (1.11)	2.8 (1.04)	

* $p<0.05$,　** $p<0.01$

わない”という傾向が強い。反対に，昭和62年度のＱ６・Ｑ７・Q12・Q14，平成元年度のＱ６・Ｑ７・Q12・Q14，平成３年度のＱ６・Ｑ７・Q10・Q12・Q14などは“そう思う”という傾向が強い。特に，平成３年度のQ10「講義時間中におしゃべりをする人が多い」に対しては，唯一平均値が1.8（ＳＤ＝0.79）と１点台で，先に述べたように，全学生が共通して捉えている意識（“そう思う”傾向がかなり強い）と解釈できる。

Ⅳ．因子分析による意識構造の検討

基本統計量による専攻間・年度間の比較は，各項目の出現率や平均値という視点から捉えようとしたものである。ここでは，各項目の構造を把握するために，因子分析法(factor analysis)を用いて検討することにした。

因子分析の手続きは，以下の通りである。①昭和62年度，平成元年度，平成３年度の各年度の対象者全員と，それぞれのＪ（経営実務専攻），Ｈ（秘書専攻），Ｎ（日本文学専攻），Ａ（英米文学専攻）を対象にする。②主因子法により因子を抽出したが，固有値ならびに寄与率の様子と因子の解釈を考慮して３因子を指定し，バリマックス(Varimax)回転を行い，因子行列（パターン）を求めた。なお，表18～表22，表28～表32，表38～表42は，それぞれ各年度の専攻別のバリマックス回転後の因子パターンを，また，表23～表27，表33～表37，表43～表47は，それぞれ各年度の専攻別の因子負荷量の高い項目を因子毎に掲げたものである。ただし，昭和62年度と平成元年度のＱ９は，元の設問項目（“本学には気に入らない先生が多い”）のままで処理してある。

１．昭和62（1987）年度の因子パターン

(1) 表18は，バリマックス回転後のＪの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表23である。第Ⅰ因子はQ13，Ｑ２，Ｑ５，Ｑ９の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ12，Ｑ６，Q14，の項目に負荷量が高く，『勉学への意欲』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はＱ４，Ｑ１，Q15の項目に負荷量が高く，『本学の独自性』を表す因子と考えられる。

(2) 表19は，バリマックス回転後のＨの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表24である。第Ⅰ因子はＱ９（逆転項目），Ｑ３，Ｑ４，Ｑ１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はＱ６，Ｑ７，Ｑ８，Ｑ14の項目に負荷量が高く，『評価への要望』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はQ13，Ｑ２，Ｑ５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(3) 表20は，バリマックス回転後のＮの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表25である。第Ⅰ因子はＱ９，Ｑ５，Ｑ３（逆転項目），Q13の項目に負

荷量が高く，『講義の厳しさと不満』を表す因子と考えられる。第II因子はQ６，Q12の項目に負荷量が高く，『勉学への意欲』を表す因子と考えられる。第III因子はQ５，Q１の項目に負荷量が高く，『講義のレベル』を表す因子と考えられる。

(4) 表21は，バリマックス回転後のAの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが，表26である。第I因子はQ３，Q９（逆転項目），Q４，Q１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第II因子はQ６，Q７，Q８の項目に負荷量が高く，『評価への要望』を表す因子と考えられる。第III因子はQ２，Q13，Q５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(5) 表22は，バリマックス回転後の全対象者の因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表27である。第I因子はQ６，Q12，Q８の項目に負荷量が高く，『勉学への意欲』を表す因子と考えられる。第II因子はQ９（逆転項目），Q３，Q１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第III因子はQ２，Q13，Q５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

なお，図１は昭和62年度の全対象者について，バリマックス回転後の因子パターンをプロットしたものである。第I因子，第II因子，第III因子を３次元とした空間にQ１～Q15が，①因子負荷量に基づく各項目の位置，②各項目間の３次元上の関係，③グルーピングできる項目，④独立で特殊な項目，などについて視覚的に捉えることができる。ただし，３回分を比較し易いように，Q９の符号は逆にしてある。

表18　J（経営実務専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（昭和62年度）

項　目	第I因子	第II因子	第III因子
Q１	−0.032075	0.013540	0.488161
Q２	0.646967	0.142961	−0.113447
Q３	−0.230747	0.104815	0.369839
Q４	−0.087433	0.037154	0.506686
Q５	0.557334	−0.357178	0.158248
Q６	−0.007865	0.554009	0.179176
Q７	0.112616	0.305128	0.191648
Q８	−0.090327	0.295374	0.363825
Q９	0.415067	0.069828	−0.369329
Q10	−0.046063	−0.261110	0.036518
Q11	0.038697	0.076061	0.137353
Q12	−0.080244	0.587270	0.062150
Q13	0.703730	0.041979	−0.101545
Q14	−0.019315	0.405025	0.119476
Q15	−0.036371	0.075575	0.416445
因子寄与	1.491278	1.243083	1.229405

表19　H（秘書専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（昭和62年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.511489	0.081447	0.138386
Q 2	0.053448	0.061840	0.552255
Q 3	0.571768	−0.005636	0.131486
Q 4	0.552837	0.100892	−0.031757
Q 5	0.167501	−0.009972	0.484238
Q 6	0.024765	0.641773	−0.313311
Q 7	0.104973	0.551824	−0.184674
Q 8	−0.013707	0.477767	0.142090
Q 9	−0.749450	0.013893	0.132811
Q10	−0.011592	−0.339666	−0.024648
Q11	0.081891	0.222043	0.015948
Q12	−0.232992	0.295989	−0.055400
Q13	−0.096050	−0.106666	0.563641
Q14	−0.096669	0.406981	0.007979
Q15	0.114948	0.394731	−0.008388
因子寄与	1.591487	1.550714	1.068773

表20　N（日本文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（昭和62年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	−0.115317	0.051266	0.412657
Q 2	0.350503	−0.080320	0.038372
Q 3	−0.456612	0.028558	0.282039
Q 4	−0.117342	0.018499	0.394555
Q 5	0.490483	0.015562	0.529114
Q 6	−0.215902	0.564426	0.005225
Q 7	0.227744	0.267485	0.059291
Q 8	0.038667	0.390720	−0.042430
Q 9	0.745828	0.133342	−0.274318
Q10	0.203896	−0.108068	−0.041684
Q11	−0.131927	0.050006	−0.219525
Q12	−0.089052	0.447361	0.027166
Q13	0.410295	0.079138	0.086050
Q14	0.043099	0.334314	−0.071540
Q15	−0.009836	0.296413	0.076455
因子寄与	1.492428	0.991247	0.836568

表21　A（英米文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（昭和62年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.522408	−0.003663	0.209986
Q 2	−0.109333	0.103973	0.616238
Q 3	0.692097	0.162688	−0.114453
Q 4	0.566656	−0.144630	−0.072725
Q 5	−0.174992	−0.076293	0.463776
Q 6	0.129792	0.617862	−0.059426
Q 7	0.025433	0.517743	0.291092
Q 8	0.098381	0.458495	0.110253
Q 9	−0.586215	0.025301	0.188490
Q10	−0.003362	−0.380835	0.140015
Q11	0.106979	0.069420	−0.026756
Q12	−0.068740	0.331283	−0.090220
Q13	0.011444	−0.141468	0.487397
Q14	−0.025646	0.200443	−0.156012
Q15	0.185490	0.189723	−0.123000
因子寄与	1.537779	1.280487	1.098755

表22　全対象者のバリマックス回転後の因子パターン

（昭和62年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.039889	0.498642	0.082205
Q 2	0.032539	−0.071940	0.594091
Q 3	0.197057	0.513118	−0.081589
Q 4	−0.080574	0.372082	−0.027204
Q 5	−0.157614	0.007542	0.519722
Q 6	0.630758	0.054584	−0.083502
Q 7	0.370697	−0.014502	0.150751
Q 8	0.424911	0.066625	0.094704
Q 9	−0.023347	−0.619311	0.266055
Q10	−0.293085	−0.035917	0.037041
Q11	0.103949	0.061479	−0.021821
Q12	0.460154	−0.100311	−0.070621
Q13	0.038668	−0.095373	0.552460
Q14	0.351340	−0.060833	−0.044473
Q15	0.279416	0.172705	−0.030384
因子寄与	1.300637	1.104542	1.061610

表23　J（経営実務専攻）における因子パターン（昭和62年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.703730
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.646967
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.557334
Q 9	本学には気に入らない先生が多い	0.415067
第Ⅱ因子		
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.587270
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.554009
Q14	教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい	0.405025
第Ⅲ因子		
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.506686
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.488161
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.416445

表24　H（秘書専攻）における因子パターン（昭和62年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.749450
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.571768
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.552837
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.511489
第Ⅱ因子		
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.641773
Q 7	単位を与えるときには出席点を考慮してほしい	0.551824
Q 8	レポートの提出より試験の方がよい	0.477767
Q14	教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい	0.406981
第Ⅲ因子		
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.563641
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.552255
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.484238

（－）は逆転項目

表25　N（日本文学専攻）における因子パターン（昭和62年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 9	本学には気に入らない先生が多い	0.745828
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.490483
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい（－）	－0.456612
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.410295
第Ⅱ因子		
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.564426
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.447361
第Ⅲ因子		
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.529114
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.412657

（－）は逆転項目

表26　A（英米文学専攻）における因子パターン（昭和62年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.692097
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.586215
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.566656
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.522408
第Ⅱ因子		
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.617862
Q 7	単位を与えるときには出席点を考慮してほしい	0.517743
Q 8	レポートの提出より試験の方がよい	0.458495
第Ⅲ因子		
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.616238
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.487397
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.463776

（－）は逆転項目

表27　全対象者における因子パターン（昭和62年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.630758
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.460154
Q 8	レポートの提出より試験の方がよい	0.424911
第Ⅱ因子		
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.619311
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.513118
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.498642
第Ⅲ因子		
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.594091
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.552460
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.519722

（－）は逆転項目

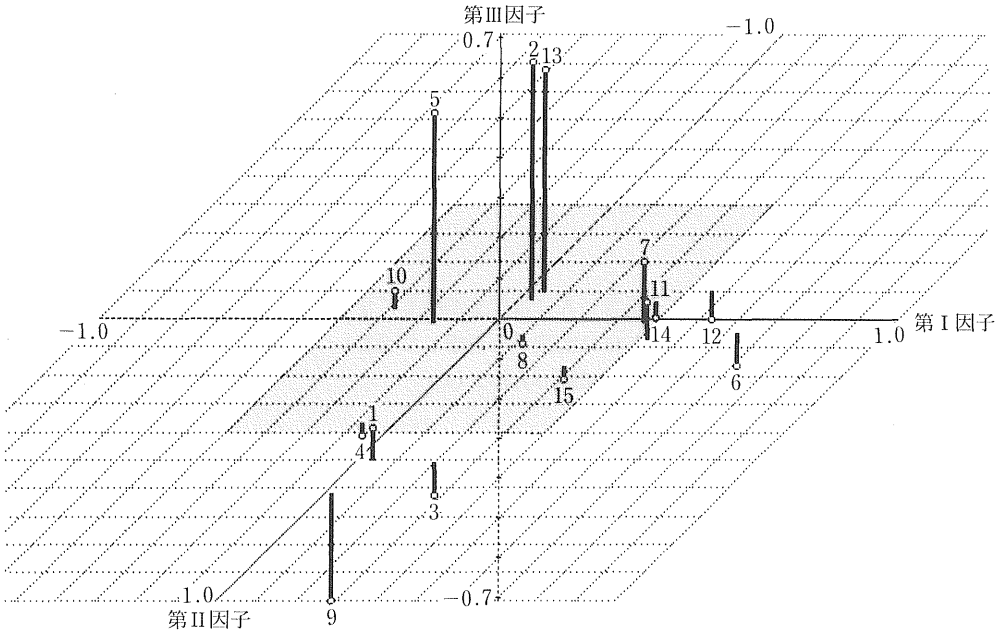

図１　回転後因子パターンプロット（昭和62年度）

2．平成元（1989）年度の因子パターン

(1)　表28は，バリマックス回転後のＪの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表33である。第Ⅰ因子はＱ６，Q11，Ｑ７，Q15の項目に負荷量が高く，『教員への要望』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はＱ３，Ｑ４，Ｑ９（逆転項目），Ｑ１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はＱ２の項目しか挙げていないが，Ｑ５とQ13の負荷量も0.36以上あるので，弱いながら『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(2)　表29は，バリマックス回転後のＨの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表34である。第Ⅰ因子はＱ６，Q12の項目に負荷量が高く，『勉学への意欲』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はＱ３，Ｑ９（逆転項目），Ｑ４，Ｑ１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はＱ２，Ｑ５，Q13の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(3)　表30は，バリマックス回転後のＮの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表35である。第Ⅰ因子はＱ３，Ｑ１，Ｑ４，Ｑ９（逆転項目）の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ14，Q15，Ｑ６の項目に負荷量が高く，『講義内容の充実』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はQ13，Ｑ５，Ｑ２の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(4)　表31は，バリマックス回転後のＡの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表36である。第Ⅰ因子はQ15，Ｑ６，Q12，Q11の項目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気と意欲』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ13，Ｑ２，Ｑ５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はＱ３，Ｑ１，Ｑ４の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。

(5)　表32は，バリマックス回転後の全対象者の因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表37である。第Ⅰ因子はＱ６，Q15，Q12，Q11の項目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気と意欲』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はＱ３，Ｑ４，Ｑ１，Ｑ９（逆転項目）の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はＱ２，Q13，Ｑ５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

なお，図２は平成元年度の全対象者について，バリマックス回転後の因子パターンをプロットしたものである。第Ⅰ因子，第Ⅱ因子，第Ⅲ因子を３次元とした空間にＱ１～Q15が，①因子負荷量に基づく各項目の位置，②各項目間の３次元上の関係，③グルーピングできる項目，④独立で特殊な項目，などについて視覚的に捉えることができる。ただし，３回分を比較し易いように，Ｑ９の符号は逆にしてある。

表28　J（経営実務専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成元年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.165945	0.496247	0.232123
Q 2	−0.016544	−0.262969	0.785159
Q 3	0.033683	0.647051	−0.014787
Q 4	0.068619	0.604529	0.050641
Q 5	−0.131616	0.043207	0.393405
Q 6	0.662043	−0.011077	−0.136540
Q 7	0.470999	0.035345	0.009581
Q 8	0.042339	0.264380	−0.063339
Q 9	−0.003083	−0.562848	0.150906
Q10	−0.399709	−0.168633	0.037980
Q11	0.477519	0.040936	0.030463
Q12	0.344560	−0.013230	−0.031999
Q13	0.298258	0.029756	0.362249
Q14	0.277862	0.107684	−0.026680
Q15	0.421472	0.036163	0.179123
因子寄与	1.563238	1.533556	1.040841

表29　H（秘書専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成元年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.164447	0.481286	0.091996
Q 2	−0.099591	0.086786	0.619174
Q 3	−0.089712	0.665662	−0.070249
Q 4	0.065718	0.530138	0.076157
Q 5	−0.206994	0.017780	0.583231
Q 6	0.537612	0.020774	−0.142768
Q 7	0.375990	0.182161	0.018056
Q 8	0.097432	0.112871	−0.145048
Q 9	−0.047194	−0.539053	0.153431
Q10	−0.375827	−0.015379	0.062919
Q11	0.353942	0.126143	−0.098351
Q12	0.493903	−0.048342	0.022465
Q13	0.227320	−0.073640	0.527462
Q14	0.369399	−0.040494	−0.001131
Q15	0.382228	0.113248	0.004782
因子寄与	1.378980	1.338941	1.100399

表30　N（日本文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成元年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.625048	0.062486	0.037735
Q 2	0.012090	−0.013565	0.471228
Q 3	0.669605	−0.035569	−0.109085
Q 4	0.508873	−0.080680	0.140371
Q 5	0.068856	−0.087524	0.568778
Q 6	0.116910	0.513998	−0.009220
Q 7	−0.049101	0.339212	0.381459
Q 8	−0.071340	0.252401	−0.063051
Q 9	−0.496181	−0.100898	0.134520
Q10	−0.143315	−0.100408	0.250529
Q11	−0.032218	0.397199	0.164315
Q12	−0.020144	0.387693	−0.037688
Q13	−0.008074	−0.005695	0.611917
Q14	0.106032	0.572374	−0.030525
Q15	0.070497	0.530853	−0.152147
因子寄与	1.408519	1.400272	1.235966

表31　A（英米文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成元年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	−0.148744	−0.029053	0.603294
Q 2	−0.049698	0.625631	−0.062713
Q 3	−0.048513	−0.042104	0.627677
Q 4	−0.113435	0.157205	0.444833
Q 5	−0.239054	0.568840	0.049785
Q 6	0.539721	−0.251915	−0.083242
Q 7	0.230538	0.159468	0.383469
Q 8	0.169138	−0.282628	−0.023823
Q 9	−0.002079	0.174053	−0.279502
Q10	0.052237	0.123656	−0.124734
Q11	0.443076	−0.095211	0.181965
Q12	0.502601	−0.028092	−0.093241
Q13	0.016673	0.625977	0.020112
Q14	0.387671	−0.027123	−0.056940
Q15	0.569001	−0.009389	−0.129670
因子寄与	1.396003	1.359203	1.272721

表32　全対象者のバリマックス回転後の因子パターン

（平成元年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.086491	0.527088	0.031059
Q 2	−0.053208	−0.058587	0.583379
Q 3	0.010260	0.602786	−0.049137
Q 4	−0.015026	0.551329	0.077244
Q 5	−0.197781	0.102124	0.536213
Q 6	0.575387	−0.005364	−0.095326
Q 7	0.359346	0.097883	0.163354
Q 8	0.145452	0.106761	−0.137629
Q 9	−0.064804	−0.460551	0.142407
Q10	−0.222093	−0.050630	0.064506
Q11	0.432108	0.036462	0.031019
Q12	0.433547	−0.079999	−0.040582
Q13	0.144506	−0.064539	0.545430
Q14	0.384232	0.032177	−0.044682
Q15	0.436872	0.036143	−0.012651
因子寄与	1.318693	1.208912	1.018615

表33　J（経営実務専攻）における因子パターン（平成元年度）

		因子負荷量
第Ⅰ因子		
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.662043
Q11	友達に代返などを頼む人が多い	0.477519
Q 7	単位を与えるときには出席点を考慮してほしい	0.470999
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.421472
第Ⅱ因子		
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.647051
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.604529
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（−）	−0.562848
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.496247
第Ⅲ因子		
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.785159

（−）は逆転項目

表34　H（秘書専攻）における因子パターン（平成元年度）

		因子負荷量
第Ⅰ因子		
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.537612
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.493903
第Ⅱ因子		
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.665662
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.539053
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.530138
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.481286
第Ⅲ因子		
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.619174
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.583231
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.527462

（－）は逆転項目

表35　N（日本文学専攻）における因子パターン（平成元年度）

		因子負荷量
第Ⅰ因子		
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.669605
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.625048
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.508873
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.496181
第Ⅱ因子		
Q14	教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい	0.572374
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.530853
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.513998
第Ⅲ因子		
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.611917
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.568778
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.471228

（－）は逆転項目

表36　A（英米文学専攻）における因子パターン（平成元年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.569001
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.539721
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.502601
Q11	友達に代返などを頼む人が多い	0.443076
第Ⅱ因子		
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.625977
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.625631
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.568840
第Ⅲ因子		
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.627677
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.603294
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.444833

表37　全対象者における因子パターン（平成元年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.575387
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.436872
Q12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.433547
Q11	友達に代返などを頼む人が多い	0.432108
第Ⅱ因子		
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.602786
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.551329
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.527088
Q 9	本学には気に入らない先生が多い（－）	－0.460551
第Ⅲ因子		
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.583379
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.545430
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.536213

（－）は逆転項目

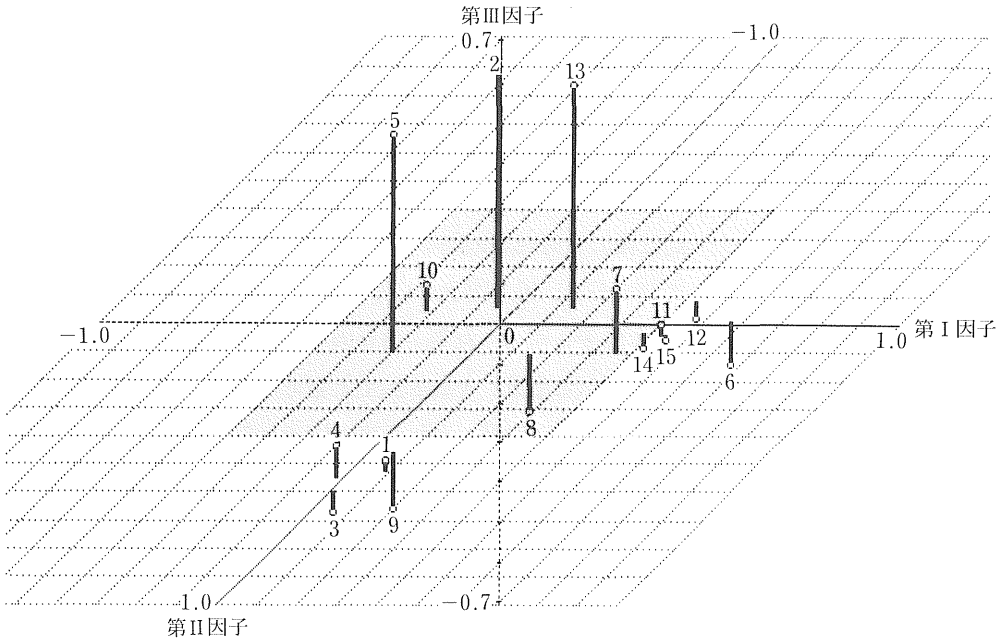

図2　回転後因子パターンプロット（平成元年度）

3．平成3（1991）年度の因子パターン

(1)　表38は，バリマックス回転後のJの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表43である。第I因子はQ10，Q15，Q6，Q11，Q7の項目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気』を表す因子と考えられる。第II因子はQ9，Q3の項目に負荷量が高く，『教員への好意』を表す因子と考えられる。第III因子はQ13，Q5，Q2の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

(2)　表39は，バリマックス回転後のHの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表44である。第I因子はQ3，Q9，Q4，Q1の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第II因子はQ13，Q5，Q10（逆転項目）の項目に負荷量が高く，『講義の緊張』を表す因子と考えられる。第III因子はQ14，Q15の項目に負荷量が高く，『講義内容の充実』を表す因子と考えられる。

(3)　表40は，バリマックス回転後のNの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表45である。第I因子はQ9，Q3，Q1，Q4の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第II因子はQ13，Q5，Q2の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。第III因子はQ6，Q10，Q14，Q15の項

目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気』を表す因子と考えられる。

(4) 表41は，バリマックス回転後のAの因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表46である。第Ⅰ因子はQ３，Q４，Q９，Q１の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ13，Q２，Q５の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。第Ⅲ因子はQ６，Q10，Q15，Q12の項目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気と意欲』を表す因子と考えられる。

(5) 表42は，バリマックス回転後の全対象者の因子パターンである。そのうち，因子負荷量の高い項目を掲げたものが表47である。第Ⅰ因子はQ３，Q９，Q１，Q４の項目に負荷量が高く，『本学への好意』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ６，Q15，Q10，Q12の項目に負荷量が高く，『勉学の雰囲気と意欲』を表す因子と考えられる。第Ⅱ因子はQ13，Q５，Q２の項目に負荷量が高く，『講義の厳しさ』を表す因子と考えられる。

なお，図３は平成３年度の全対象者について，バリマックス回転後の因子パターンをプロットしたものである。第Ⅰ因子，第Ⅱ因子，第Ⅲ因子を３次元とした空間にQ１～Q15が，①因子負荷量に基づく各項目の位置，②各項目間の３次元上の関係，③グルーピングできる項目，④独立で特殊な項目，などについて視覚的に捉えることができる。

表38　J（経営実務専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成３年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q１	−0.009240	0.392450	0.158432
Q２	−0.101623	−0.191794	0.461116
Q３	0.048879	0.590911	−0.081557
Q４	−0.067126	0.383480	−0.069802
Q５	−0.158570	0.078055	0.465231
Q６	0.460532	0.192350	−0.150278
Q７	0.406567	0.057834	−0.037466
Q８	0.116075	−0.112881	−0.259675
Q９	0.080760	0.721518	0.089263
Q10	0.564079	−0.022490	−0.113294
Q11	0.441617	−0.113494	−0.075319
Q12	0.374908	0.344974	0.086039
Q13	0.328677	0.022172	0.738784
Q14	0.214099	−0.011294	−0.017165
Q15	0.540792	0.000387	0.055267
因子寄与	1.539923	1.399814	1.140141

表39　H（秘書専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成３年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.514376	0.042446	−0.132728
Q 2	−0.039907	0.340876	0.059329
Q 3	0.695028	−0.064247	0.105013
Q 4	0.592144	−0.085911	−0.175779
Q 5	−0.141873	0.500933	0.031296
Q 6	0.313204	−0.206891	0.351752
Q 7	−0.093846	0.105678	0.217786
Q 8	0.320306	−0.150165	0.026395
Q 9	0.650558	0.054276	0.039991
Q10	0.129746	−0.444400	0.269788
Q11	−0.098760	−0.271519	0.225410
Q12	0.020540	−0.027373	0.387485
Q13	0.054719	0.663000	0.150449
Q14	−0.046561	−0.028054	0.544844
Q15	0.009693	0.079159	0.505822
因子寄与	1.784993	1.178493	1.086584

表40　N（日本文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成３年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.589258	0.247206	0.069230
Q 2	0.045978	0.446741	0.076324
Q 3	0.676649	0.059712	−0.023941
Q 4	0.497927	−0.046821	−0.101612
Q 5	0.078577	0.586446	−0.003856
Q 6	0.160131	−0.018277	0.577566
Q 7	0.076080	0.297757	0.151939
Q 8	0.201872	−0.217175	0.146259
Q 9	0.701417	−0.004815	0.042826
Q10	−0.091585	−0.029132	0.518309
Q11	−0.150948	−0.024595	0.294721
Q12	0.332035	0.049167	0.321157
Q13	−0.050087	0.752015	0.004737
Q14	−0.025007	0.219505	0.497034
Q15	0.131508	0.131748	0.423896
因子寄与	1.787315	1.381483	1.286824

表41　A（英米文学専攻）のバリマックス回転後の因子パターン

（平成３年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.425829	0.126308	−0.064588
Q 2	−0.047348	0.617854	−0.107297
Q 3	0.753671	−0.001653	0.128940
Q 4	0.548633	−0.032896	−0.076799
Q 5	0.153225	0.466664	−0.128011
Q 6	0.085467	−0.008345	0.492972
Q 7	−0.038576	−0.003702	0.006199
Q 8	0.074620	−0.028521	0.230808
Q 9	0.500922	−0.044639	0.224291
Q10	−0.163532	−0.123922	0.492952
Q11	−0.061598	−0.117154	0.304860
Q12	0.001698	−0.106526	0.424580
Q13	−0.010359	0.784821	0.118225
Q14	−0.029203	0.100643	0.342644
Q15	0.015655	0.049286	0.467910
因子寄与	1.373096	1.288379	1.267765

表42　全対象者のバリマックス回転後の因子パターン

（平成３年度）

項　目	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
Q 1	0.487803	−0.054202	0.061542
Q 2	−0.048650	0.009795	0.486019
Q 3	0.631698	0.122238	−0.001038
Q 4	0.473660	−0.171160	−0.124690
Q 5	0.050478	−0.071867	0.527364
Q 6	0.153280	0.501341	−0.110219
Q 7	−0.007619	0.204930	0.099594
Q 8	0.156733	0.051666	−0.186434
Q 9	0.597227	0.167022	0.015835
Q10	−0.023313	0.444479	−0.211250
Q11	−0.087841	0.265383	−0.143375
Q12	0.103532	0.427875	0.006555
Q13	0.028702	0.152642	0.683617
Q14	−0.056883	0.398775	0.090997
Q15	0.035122	0.458318	0.061935
因子寄与	1.295332	1.219785	1.135413

表43　J（経営実務専攻）における因子パターン（平成3年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q10	講義時間中におしゃべりをする人が多い	0.564079
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.540792
Q 6	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.460532
Q11	友達に代返などを頼む人が多い	0.441617
Q 7	単位を与えるときには出席点を考慮してほしい	0.406567
第Ⅱ因子		
Q 9	本学には好感を持てる先生が多い	0.721518
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.590911
第Ⅲ因子		
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.738784
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.465231
Q 2	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.461116

表44　H（秘書専攻）における因子パターン（平成3年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Q 3	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.695028
Q 9	本学には好感を持てる先生が多い	0.650558
Q 4	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.592144
Q 1	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.514376
第Ⅱ因子		
Q13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.663000
Q 5	本学の定期試験は難しい	0.500933
Q10	講義時間中におしゃべりをする人が多い（－）	－0.444400
第Ⅲ因子		
Q14	教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい	0.544844
Q15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.505822

（－）は逆転項目

表45　N（日本文学専攻）における因子パターン（平成３年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Ｑ９	本学には好感を持てる先生が多い	0.701417
Ｑ３	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.676649
Ｑ１	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.589258
Ｑ４	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.497927
第Ⅱ因子		
Ｑ13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.752015
Ｑ５	本学の定期試験は難しい	0.586446
Ｑ２	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.446741
第Ⅲ因子		
Ｑ６	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.577566
Ｑ10	講義時間中におしゃべりをする人が多い	0.518309
Ｑ14	教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい	0.497034
Ｑ15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.423896

表46　A（英米文学専攻）における因子パターン（平成３年度）

第Ⅰ因子		因子負荷量
Ｑ３	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.753671
Ｑ４	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.548633
Ｑ９	本学には好感を持てる先生が多い	0.500922
Ｑ１	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.425829
第Ⅱ因子		
Ｑ13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.784821
Ｑ２	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.617854
Ｑ５	本学の定期試験は難しい	0.466664
第Ⅲ因子		
Ｑ６	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.492972
Ｑ10	講義時間中におしゃべりをする人が多い	0.492952
Ｑ15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.467910
Ｑ12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.424580

表47　全対象者における因子パターン（平成３年度）

		因子負荷量
第Ⅰ因子		
Ｑ３	本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい	0.631698
Ｑ９	本学には好感を持てる先生が多い	0.597227
Ｑ１	他の短大にはない独特の講義があるのでよい	0.487803
Ｑ４	本学の講義は社会に出てから役立つものが多い	0.473660
第Ⅱ因子		
Ｑ６	講義時間中にうるさい人には先生が厳しくすべきだ	0.501341
Ｑ15	経営学演習・文学演習を，もっと充実してほしい	0.458318
Ｑ10	講義時間中におしゃべりをする人が多い	0.444479
Ｑ12	もっと専門的なことを一つ追求して勉強したい	0.427875
第Ⅲ因子		
Ｑ13	勉強に追われ自分のやりたいことができない	0.683617
Ｑ５	本学の定期試験は難しい	0.527364
Ｑ２	本学の講義は詰め込みすぎだ	0.486019

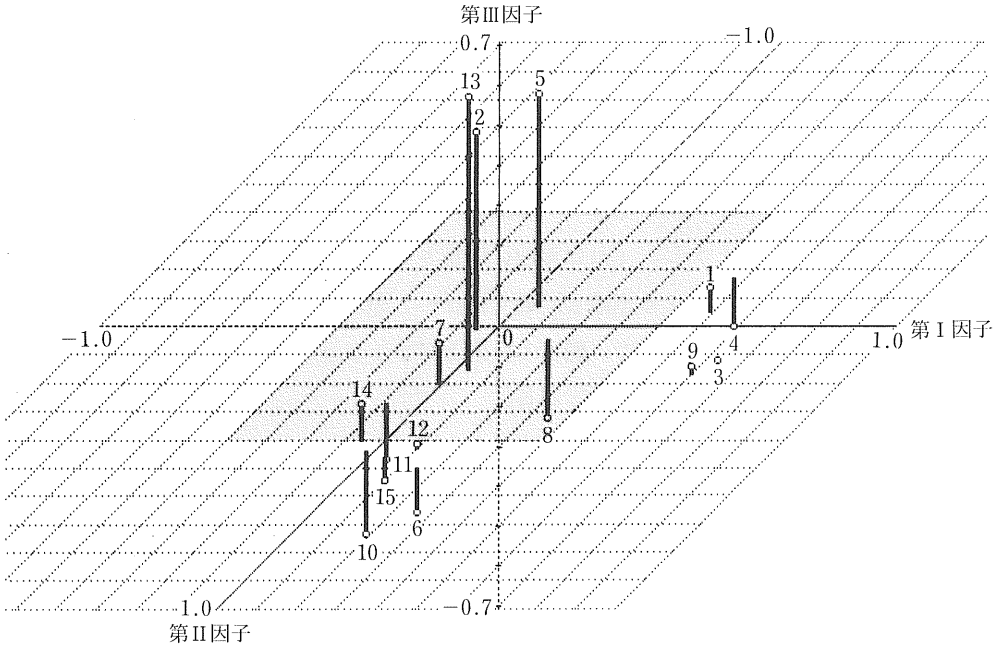

図３　回転後因子パターンプロット（平成３年度）

以上の各年度に認められた第Ⅰ因子，第Ⅱ因子，第Ⅲ因子の命名をわかりやすく表示したものが表48である。さらに，各専攻別に因子の推移をまとめたものが表49である。年度によってどのような意識の変化が存在するのかが理解できる。

(1) 昭和62年度の専攻別の因子名（表48）を見ると，J（経営実務専攻）とN（日本文学専攻）は「講義が厳しくて不満もあるが，勉学への意欲」を思わせる意識構造の存在が明らかになった。これに対して，H（秘書専攻）とA（英米文学専攻）は「本学を好意的に評価する反面，教員に対する種々の要望」を抱いている点が明らかになった。また，因子寄与は低いもののJが「本学の独自性」を強調していることは，本学の価値が認識されたものと解釈される。さらに，全対象者で特徴的なのは，「勉学への意欲」を持って通学することが強い意識になって現れていることであろう。

(2) 平成元年度の専攻別の因子名（表48）を見ると，因子寄与の高い第Ⅰ因子は専攻によってすべて異なり，それぞれの意識構造に特徴的な差異のあることが明らかになった。たとえば，J（経営実務専攻）は教員に対する強い要望が中心であり，H（秘書専攻）は勉学に対して前向きな態度を抱いている。これらの専攻の意識構造は，講義を受けた後の内容を問題にするよりも，学生自身が大学教育に対して，どのように取り組もうとしているのかを問題にしていると解釈できる。一方，N（日本文学専攻）が本学への好意，A（英米文学専攻）が勉学の雰囲気と意欲を挙げているのは，おそらく，これも勉学の準備としての環境を重視しているのであろう。全体的に見た場合，昭和62年度の第Ⅰ因子の中に講義自体の厳しさを問題にする専攻があるのに対して，平成元年度の学生は必ずしもそのような特徴を示しておらず，この年度間に学生の意識が変容したように思われる。

(3) 平成3年度の専攻別の因子名（表48）を見ると，どの専攻とも「本学への好意」が含まれている。つまり，本学が組み込んでいる講義科目やカリキュラムを好意的に受け取っていることが理解できる。しかし，それは事前に用意されているものに対する消極的な行動であり，積極的に取り組もうとする意欲と同義ではないと思われる。自由を奪い，思考を強要する教員や講義に対しては否定的で，個人の自由とファッション感覚的な大学を求める学生の意識が浮き彫りにされたような思いである。

本研究は，過去8年間にわたり継続的に調査してきた『本学学生の意識構造』について，従来からの中心的だった量的統計手法に加え，手続上ではあるが因子分析法を用いた質的データ処理を試みた。今回はデータ処理法を中心に論を進めたが，今後は専攻間相互の関連性などについて，さらに研究を深めて行きたいと考えている。

表48　専攻別の因子名

年度	専　　攻	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
昭和62年度	J（経営実務専攻）	講義の厳しさ	勉学への意欲	本学の独自性
	H（秘書専攻）	本学への好意	評価への要望	講義の厳しさ
	N（日本文学専攻）	講義の厳しさと不満	勉学への意欲	講義のレベル
	A（英米文学専攻）	本学への好意	評価への要望	講義の厳しさ
	全　　体	勉学への意欲	本学への好意	講義の厳しさ
平成元年度	J（経営実務専攻）	教員への要望	本学への好意	（講義の厳しさ）
	H（秘書専攻）	勉学への意欲	本学への好意	講義の厳しさ
	N（日本文学専攻）	本学への好意	講義内容の充実	講義の厳しさ
	A（英米文学専攻）	勉学の雰囲気と意欲	講義の厳しさ	本学への好意
	全　　体	勉学の雰囲気と意欲	本学への好意	講義の厳しさ
平成3年度	J（経営実務専攻）	勉学の雰囲気	教員への好意	講義の厳しさ
	H（秘書専攻）	本学への好意	講義の緊張	講義内容の充実
	N（日本文学専攻）	本学への好意	講義の厳しさ	勉学の雰囲気
	A（英米文学専攻）	本学への好意	講義の厳しさ	勉学の雰囲気と意欲
	全　　体	本学への好意	勉学の雰囲気と意欲	講義の厳しさ

表49　因子の推移

専攻	年　　度	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
J	昭和62年度	講義の厳しさ	勉学への意欲	本学の独自性
	平成元年度	教員への要望	本学への好意	（講義の厳しさ）
	平成3年度	勉学の雰囲気	教員への好意	講義の厳しさ
H	昭和62年度	本学への好意	評価への要望	講義の厳しさ
	平成元年度	勉学への意欲	本学への好意	講義の厳しさ
	平成3年度	本学への好意	講義の緊張	講義内容の充実
N	昭和62年度	講義の厳しさと不満	勉学への意欲	講義のレベル
	平成元年度	本学への好意	講義内容の充実	講義の厳しさ
	平成3年度	本学への好意	講義の厳しさ	勉学の雰囲気
A	昭和62年度	本学への好意	評価への要望	講義の厳しさ
	平成元年度	勉学の雰囲気と意欲	講義の厳しさ	本学への好意
	平成3年度	本学への好意	講義の厳しさ	勉学の雰囲気と意欲
全体	昭和62年度	勉学への意欲	本学への好意	講義の厳しさ
	平成元年度	勉学の雰囲気と意欲	本学への好意	講義の厳しさ
	平成3年度	本学への好意	勉学の雰囲気と意欲	講義の厳しさ

（注）　J（経営実務専攻）　H（秘書専攻）　N（日本文学専攻）　A（英米文学専攻）

参考文献

1) 『城西大学女子短大生の意識構造』1985.
城西大学女子短期大学部紀要第2巻第1号。
後藤敏夫・駒崎　勉・堀江　光・中澤亘子・佐藤規子・藤田主一（共著）

2) 『城西大学女子短大生の意識構造』1986.
城西大学女子短期大学部経営学科，昭和60年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・佐藤規子・藤田主一（共著）

3) 『城西大学女子短大生の意識構造』1987.
城西大学女子短期大学部経営学科，昭和61年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・島崎規子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）

4) 『城西大学女子短大生の意識構造』1988.
城西大学女子短期大学部経営学科，昭和62年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）

5) 『城西大学女子短大生の意識構造』1989.
城西大学女子短期大学部経営学科，昭和63年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・島崎規子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）

6) 『城西大学女子短大生の意識構造』1990.
城西大学女子短期大学部経営学科，平成元年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・島崎規子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）

7) 『城西大学女子短大生の意識構造』1991.
城西大学女子短期大学部経営学科，平成2年度共同研究。
後藤敏夫・堀江　光・中澤亘子・島崎規子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）

8) 『城西大学女子短大生の意識構造』1992.
城西大学女子短期大学部経営学科，平成3年度共同研究。
堀江　光・相川清治・中澤亘子・島崎規子・藤田主一・井上敏博・和田美知子（共著）